

フードドライブの促進



まだ食べることができるのに廃棄されてしまうことで発生する食品ロス。富山県の家庭で発生する食品ロスは、「食べ残し」よりも、未開封のまま捨てられる「手付かず食品」の方が多く、課題となっています。

この手付かず食品を有効活用する方法として、県では令和2年度に、家庭で余っている食品を集め、食品を必要としている福祉団体などに無償で提供する「フードドライブ」をモデル的に実施しました。

	日時	集めた場所	集まった食品
1回目	8月3日（月） ～5日（水）	黒部市役所	942点、189kg （提供者122名）
2回目	9月24日（木）、 25日（金）	高岡市役所 他市内5か所	920点、312kg （提供者123名）
3回目	10月30日（金） ～11月1日（日）	アルビス高原町店 （富山市）	687点、136kg （提供者96名）

（参考）集めた食品の条件

以下の条件をすべて満たす食品

- ・賞味期限まで1か月以上あるもの
- ・常温保存できるもの
- ・未開封で、包装が破損していないもの
- ・日本語で表記されているもの

3回の実施で、インスタント食品やお菓子、乾物など、のべ341名から約2,500点（約640kg）の食品が集まりました。

これらの食品は、各市の社会福祉協議会を通じて、生活困窮者の支援団体などに提供しました。



今後、モデル実施で得られた課題などを整理し、マニュアルを作成することで、企業、学校など各種団体による自主的なフードドライブを促進することとしています。

（事務担当：環境政策課 廃棄物対策班）